

2023年度 訓練検証項目について

1. 概要

訓練目的や訓練への反映項目等を踏まえ、2023年度の訓練検証項目を以下のとおり設定し、組織全体としての緊急時対応能力の向上を図る。

<検証項目>

	検 証 項 目	備 考
1	正確かつ確実な通報連絡の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正確かつ確実に通報連絡ができることを以下の観点を踏まえ、評価チェックシートにより確認する。 <正確性> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 通報文の記載内容に誤りがないこと。また、送信した通報文に誤記等があった場合、確実に訂正報を発出すること。 <確実性> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 通報文送信時に送信エラー等により未達となっていないことを確認し、また、送信先に着信確認（電話連絡）を実施する。

以 上

後方支援拠点（以下、LSBと言う）スケジュール等（1/2）

年度		2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	
項目		12/24 ▼		5/22 ▼	3/28 ▼	3/21 ▼	1/31 ▼
『玄海／川内原子力発電所 原子力事業者防災業務計画』修正届出							
訓練ステップ		初期訓練	習熟訓練		練度向上訓練		
『原子力事業所災害対策支援拠点(LSB)に係る運営手順書』制定、見直し		12/3 (制定) ▼	7/8 (見直し) ▼	6/2 (見直し) ▼	7/1 (見直し) ▼	4/1 (見直し) ▼	7/1 (見直し) ▼
訓練 (玄海)	LSB 訓練	11/12 ▼単独訓練 (唐津発電所)	11/28 ▼連動訓練 (唐津発電所)	11/11 ▼連動訓練 (佐世保)	12/1 ▼連動訓練 (社員研修所)	12/4 ▼連動訓練 (佐世保)	
	除染訓練	11/13 ▼ (玄海 NPS 構内)	11/27 ▼ (玄海 NPS 構内)	11/12 ▼ (相浦発電所)		12/5 ▼ (相浦駐屯地)	
訓練 (川内)	LSB 訓練	9/12 10/1 10/11~12 ▼▼▼連動訓練 単独訓練 <国総合訓練> (百次電柱置場)	2/3 2/24 ▼▼連動訓練▼▼単独訓練 (福岡支社SF) (川内発電所)	2/5 ▼連動訓練 (湯田用地)	9/9 ▼連動訓練 (隈之城用地)	10/3 ▼連動訓練 (湯田用地)	
	除染訓練	10/1 ▼ (川内 NPS 構内)	2/25 ▼ (川内 NPS 構内)		9/8 ▼ (川内駐屯地)		
空輸訓練	玄海		11/20 1/16 ▼▼ (唐浜ヘリポート)	11/11 ▼ (嬉野ヘリポート)		12/4 ▼ (相浦駐屯地)	
	川内			2/4 ▼ (湯田用地)	9/9 ▼ (川内駐屯地)		
(参考) 新たな 土地確保	玄海		社有設備 2 地点を追加 ← (佐世保営業所、社員研修所) →				
	川内		← 2 地点 (湯田、隈之城) 新規確保 →		← 宮里ヘリポート新規確保 →		
					後方支援拠点 (南方面) 新規候補地調査		

後方支援拠点（以下、LSBと言う）スケジュール等（2/2）

年度		2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31、令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)
項目							
『玄海／川内原子力発電所 原子力事業者防災業務計画』修正届出		2/27 ▼		4/1 ▼ 8/21 ▼	9/30 ▼	8/19 ▼	随時、修正 届出 ←----->
訓練ステップ		練度向上訓練 ----->					
『原子力事業所災害対策支援拠点(LSB)に係る運営手順書』制定、見直し		7/1 (見直し) ▼	7/1 (見直し) ▼	7/1 (見直し) ▼	7/1 (見直し) ▼	7/1 (見直し) ▼	8/4 (見直し) ▼ 随時、見直し ←----->
訓練 (玄海)	LSB 訓練		12/18 ▼連動訓練 (社員研修所)	12/6 ▼連動訓練 (佐世保)	12/11 ▼連動訓練 (旧唐津発電所)	11/11 ▼単独訓練 (佐世保)	2/28 ▼連動訓練 (社員研修所) ←-----> 連動訓練 (旧唐津発電所)
	除染訓練			1/31 ▼ (福岡駐屯地)			←-----> 連動訓練 (旧唐津発電所)
訓練 (川内)	LSB 訓練	10/23 ▼連動訓練 (湯田用地)	10/4 ▼連動訓練 (隈之城用地)		3/11 ▼単独訓練 (湯田用地)	3/10 ▼単独訓練 (隈之城用地)	2/11 ▼連動訓練 (湯田用地) ←-----> 連動訓練 (荒川用地)
	除染訓練	2/8 ▼ (川内駐屯地)					12/14 ▼ (北熊本駐屯地)
空輸訓練	玄海		12/6 ▼ (相浦駐屯地)				
	川内	10/23 ▼ (湯田用地)					
(参考) 新たな 土地確保	玄海						後方支援拠点 新規候補地調査 ----->
	川内			後方支援拠点（南方面）新規候補地調査		←-----> いちき串木野市荒川用地 新規確保	----->

確認 A：良好
 B：一部に改善事項が認められるが、概ね良好
 C：一層の努力が必要
 -：該当なし、または、確認できず

2023年度 原子力防災訓練（総合訓練）評価チェックシート（発電所）

資料⑩

訓練日 2024年2月27日

評価者（所属） _____ 氏名： _____

チェックシート
 通報訓練

活動検証要素	観察項目	確認	評価 (良好事例、改善事項等があれば合わせて記載)	
	評価基準			
① 関係機関への通報連絡の確実な実施 ・警戒事象発生連絡 ・特定事象発生通報 (原災法10条、15条事象) ・応急処置の概要連絡 (25条報告)	総括班は、通報・連絡に必要な情報を適切に収集、整理し、「EAL一覧表及」び「通報連絡文の記載内容を確認するポイント」を活用して通報連絡本文の内容を正確かつ解りやすくしていること。		<所感>	
			<良好事例>	
			<改善事項>	
	総括班は、連絡、通報、報告内容の確認を総括班長、本部内に依頼し、総括班長及び本部要員はEAL一覧表を活用し最終的な誤記や記載内容をチェックしていること。また、送信済の通報連絡文に誤りがあった場合、訂正の通報連絡文を確実に発出していること。 【評価に当たって】 通報連絡文確認時は、バックデータ等により数値も含めて確認していること。		<所感>	
			<良好事例>	
			<改善事項>	
	各班員は、本店及びその他社内関係者との連絡を適切かつ迅速に実施されていること。		<所感>	
		<良好事例>		
		<改善事項>		
各班員他は、関係機関への警戒事象発生連絡（FAX送信）が目安とする時間内（15分以内）に確実に行われていること。 各班員他は、関係機関への10条通報（FAX送信）が目安とする時間内（15分以内）に確実に行われていること。 各班員他は、関係機関への15条通報（FAX送信）が目安とする時間内（15分以内）に確実に行われていること。 各班員他は、関係機関への25条報告（FAX送信）が事象の進展に並び、適切な間隔とタイミングで継続して行われていること。		<所感>		
		<良好事例>		
		<改善事項>		
各班員他は、警戒事象発生連絡が先方へ届いたことを速やかに電話確認していること。（相手先担当者の確認・連絡者の指名等） 各班員他は、特定事象発生通報（10条、15条）が先方へ届いたことを速やかに電話確認していること。（相手先担当者の確認・連絡者の指名等） 各班員他は、25条報告が先方へ届いたことを速やかに電話確認していること。（相手先担当者の確認・連絡者の指名等）		<所感>		
		<良好事例>		
		<改善事項>		
総括班は、通報連絡先に抜けがないことを確認していること。 総括班は、通報連絡文送信時に送信エラー等により送信できなかった箇所がないことを確認しているか。また、送信できなかった箇所があった場合に再送信していること。 「通報連絡チェックシート」への記載内容、チェックを行っていること。 【評価に当たって】 「通報連絡チェックシート」を各班より回収し、送信確認を行っている。		<所感>		
		<良好事例>		
		<改善事項>		
総括班及び総務班は、通報・連絡資機材（TEL・FAX）に不足はなく、適切に使用していること。		<所感>		
		<良好事例>		
		<改善事項>		

※ 該当しない項目については、二重線で消すこと

2024年2月
九州電力株式会社

2023年度 玄海原子力防災訓練シナリオにおける「能力向上を促すための要素」(案)

- ◎指標6 能力向上を促せるような実効性のある事故シナリオか
- ・原子力災害の発生又は拡大の防止のために行う応急措置と実施する事故対処の能力向上に資する現場実動、プラント状態の把握を困難とする想定等、実効性を高める工夫が図られているか

【能力向上を促すためのシナリオへの要素】

シナリオ情報を含むため非開示

能力向上を促すためのシナリオへの要素に加え、シナリオ多様化の観点で以下の場面設定を実施する。

シナリオ情報を含むため非開示

現場実動訓練における能力向上を促すための要素について（案）

現場実動訓練における能力向上を促すための要素として期待される判断ポイントを以下に示す。

シナリオ情報を含むため非開示

シナリオ情報を含むため非開示

個人情報のため非開示

2023年 9月20日
原子力防災グループ

原子力防災訓練 中期計画について（2022年度～2024年度）

1. はじめに

原子力防災訓練は、これまでに習得した知識や訓練等で得た経験が、緊急時の活動において確実に機能するよう関係者と連携を図り実効性を高めていくものである。

また、不測の事態に対応するための判断力、応用力を習得するためにも訓練を重ねて対応能力の習熟を図る必要がある。

しかしながら、1回の訓練での緊急時対応の習得や人事異動による要員の入れ替わり等を考慮すると、短期的スパンでの対応能力の維持・向上の確認は現実的ではない。このため、中期的なスパンでの継続的・段階的な対応能力の向上を目的として中期計画を作成する。

2. 方針

原子力災害発生時における災害対策等を円滑かつ適切に遂行するため、当社の持つ経験に加え、福島第一事故の教訓、社内外の第三者の視点等を活かしながら、計画的・継続的に原子力防災訓練を実施することにより、緊急時対応能力向上を図る。

3. 活動内容の基本点な考え方

(1) 原子力災害時の緊急時対応のベースとなる知識及び技能は、原子力事業者防災業務計画に基づく要素訓練及び原子力防災教育並びに保安規定に基づく教育・訓練により習得する。

(2) 原子力災害時の実務的*な対応については、原子力事業者防災業務計画で規定する原子力防災訓練において、各拠点との連携や（1）における教育から得られた知識及び技能を含め、その実効性を確認し、抽出された気付き事項等を反映することにより、継続的な改善を行う。

また、原子力防災組織がそれぞれの役割分担を認識し、組織として有効に機能できることも確認する。

*国及び関係機関との連携、住民避難支援に関する活動、各拠点（発電所・本店・後方支援拠点・東京支社・各支店）間の連携などの活動

4. 計画の内容

中期計画は、以下の内容を基本として策定する。

○継続的に緊急時対応能力等の向上を図る観点から、「年度ごとの訓練テーマ」を設定する。

○中期計画の見直し時期や、訓練結果等を定期的に評価・分析する時期や方針の考え方を記載する。

- 中期計画の見直しや年度の訓練計画等に反映すべき内容を抽出するため、年度ごとに確認する項目を明確化する。

○

シナリオ情報を含むため非開示

- シナリオの多様化等の観点から、「場面設定」や「付随事象」についても訓練シナリオ作成時の要素として設定する。また、現場実動訓練においても実効性のある想定や認知、判断及び対応能力を向上させるような工夫を設定する。
- 緊急時対応能力の向上を図るため、緊急時対応組織（社外を含む）との連携訓練を設定する。
- 原子力事業者防災業務計画に記載している訓練の項目以外に、原子力防災組織として、訓練を通じて緊急時対応能力を向上させる必要がある訓練を以下のとおり整理する。
 - ① E R C との連携訓練
 - ② 原子力防災要員等の動員訓練
 - ③ 原子力事業者間協力協定等に基づく対応訓練
 - ④ 発電所支援対応訓練
 - ⑤ プレス対応訓練
 - ⑥ 住民避難支援対応訓練
 - ⑦ オフサイトセンター連携訓練
 - ⑧ 発電所支援に係る本店即応センターとの連携訓練
 - ⑨ 後方支援拠点設置運営訓練その他必要に応じ訓練項目を設定

5. 計画の見直し

訓練結果や規制側の要求及び訓練のあり方検討等を踏まえ、定期的な中期計画の評価・分析により、訓練計画の策定に考慮が必要な事項の抽出等を実施し、継続的な改善を図る。

また、中期計画は、訓練実績、訓練における目標達成状況、改善事項の反映状況、第三者の視点による評価等により必要に応じて見直しを実施する。

6. 評価・分析の時期及び方針の考え方

○評価・分析を行う時期や方針の考え方を明確にすることで、継続的に緊急時対応能力等の改善を図る。

なお、評価・分析に当たっては、以下の内容を考慮し、訓練年度計画及び中期計画に反映する。

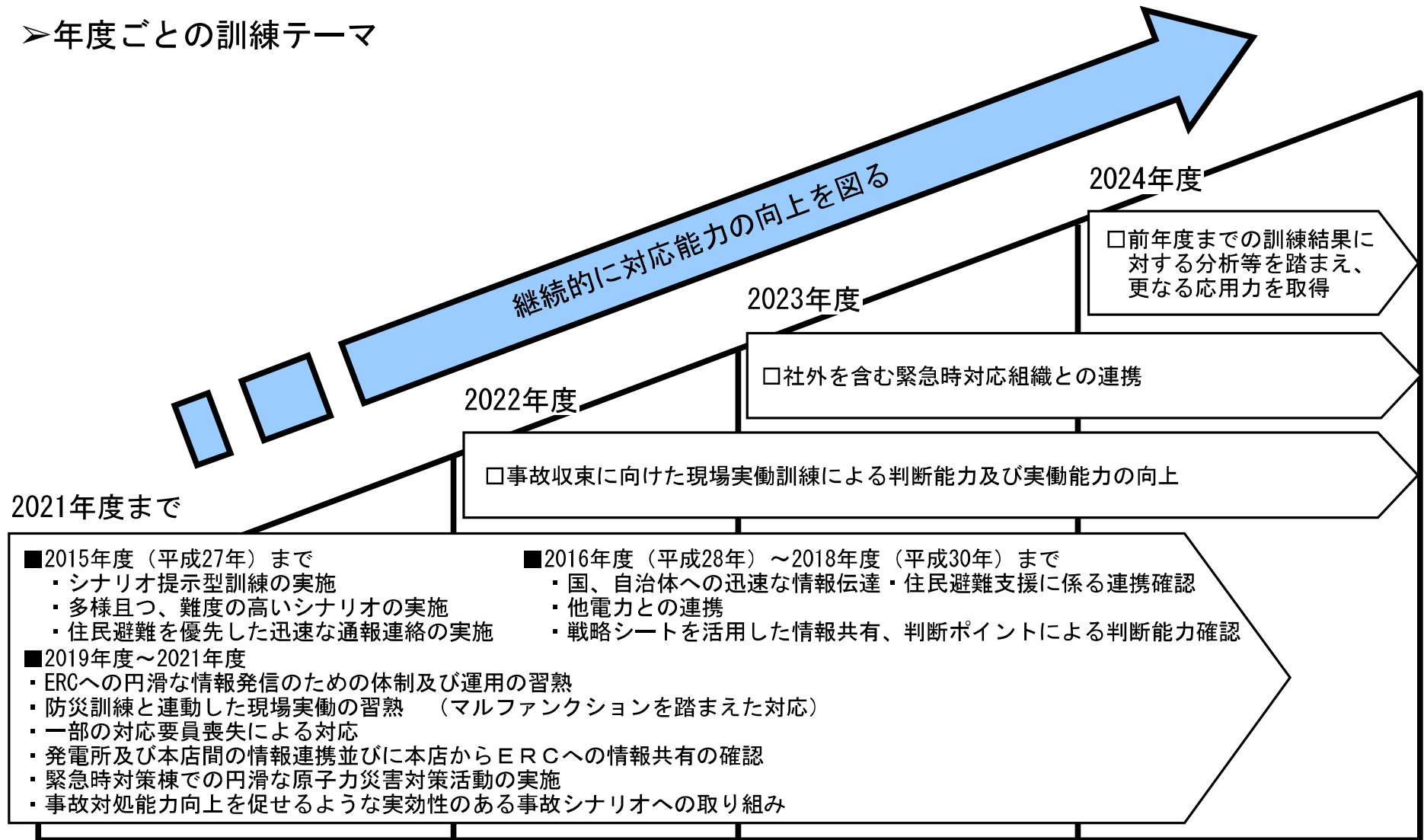
- ・原子力防災訓練の結果
- ・原子力事業者防災訓練報告会（訓練あり方検討の内容を含む）
- ・他電力原子力防災訓練の視察結果 等

○評価分析の時期

	2021 年度	2022 年度	2023 年度以降
中期計画		評価・分析 見直し	評価・分析（見直し）
年度計画		反映 策定	反映 策定
<u>インプット</u> 情報	訓練結果	訓練報告会 他電力視察結果 等	訓練報告会 他電力視察結果 等

以 上

➤年度ごとの訓練テーマ



➤年度毎の確認項目

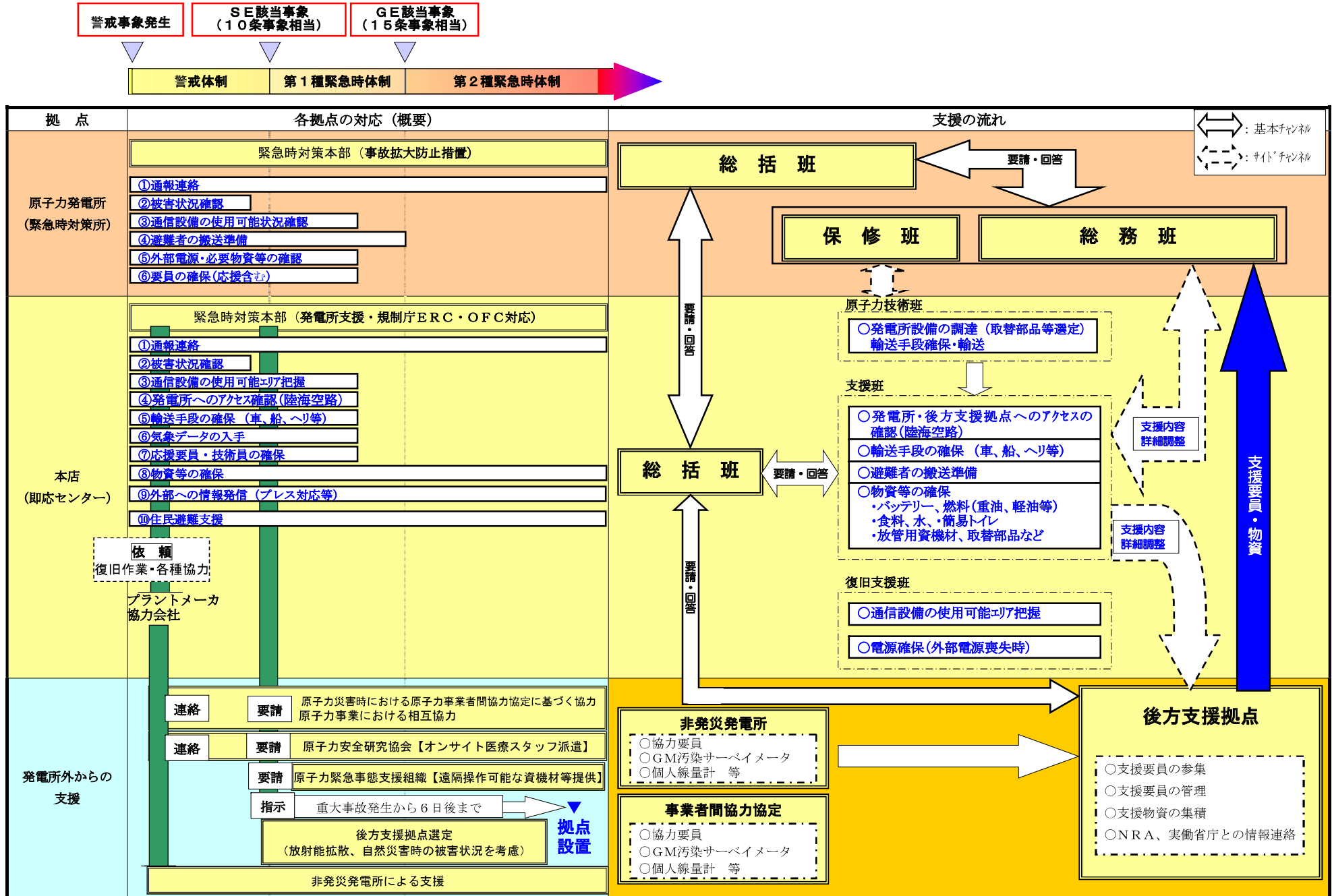
- 各拠点における役割分担を認識し、以下の災害対応ができることを確認する
 - ・緊急時における事故収束活動
 - ・発電所支援対応
 - ・関係箇所との情報連絡、連携対応
- 前年度に抽出した改善事項の有効性確認
- 原子力事業者の防災訓練の評価指標も参考にし、訓練を計画実行することで能力向上を目指す

原子力防災訓練 中期計画 (2022年度～2024年度)

改訂1：訓練あり方検討結果等を踏まえた改訂

区分		目 標		2022年度	2023年度	2024年度		
緊急時対応における連携	訓練項目	基本シナリオ	シナリオパターン (組合せ)	シナリオ情報を含むため非開示				
			シナリオの多様化(場面設定)*2					
			その他付随事象*3					
緊急時対応における連携	訓練(防災業務計画)等	総合(連携)訓練	A M 訓練	シナリオ情報を含むため非開示				
			緊急時対応訓練					
			緊急事態支援組織対応訓練					
			通 報 訓 練					
			原子力災害医療訓練					
			モ ニ タ リ ン グ 訓 練					
			避 難 誘 導 訓 練					
			ERCとの連携訓練					
			原子力防災要員等の 動員訓練					
			原子力事業者間協力協定 に基づく対応訓練					
			発電所支援対応訓練					
			プレス対応訓練					
			住民避難支援対応訓練					
	オフサイトセンター連携 訓練							
	発電所支援に係る本店即応 センターとの連携訓練							
	その他 (火災対応訓練 等)							
		訓練を通じて緊急時対応能力を向上させる必要がある 訓練(年1回)	○訓練対応の基本的考え方 ・総合訓練の型式はシナリオ非提示を原則とする。 ・訓練シナリオは基本シナリオを参照し、具体的な内容は各年度で定める。 ✓ 複数号機同時発災とし、ユニット毎に放射性物質の放出を伴う事象と設備復旧等により15 条事象に至らないシナリオとする。 さらに、シナリオ多様化の観点から、GEに至らない(SE 止まり)シナリオを必要によ り設定する。(この場合、GEに至るシナリオで通報訓練を二部訓練として実施する。) ・緊急時対応の力の向上を図るため、緊急時対応組織(社外を含む)との連携訓練を設定する。 (発電所) ・事故収束活動、事故拡大防止活動対応 (本店) ・規制庁ERCへの情報連絡など外部への情報発信 ・発電所支援対応 ・住民避難支援対応					
要素(個別)訓練	A M 訓練	○訓練対応の基本的考え方 ・手順書の適応性や必要な要員・資機材確認等の検証を行うとともに、反復訓練にて習熟度向上 及び手順の習熟を図る。 ・緊急時対応の力の向上を図るため、緊急時対応組織(社外を含む)との連携訓練を設定する。						
	緊急時対応訓練							
	緊急事態支援組織対応訓練							
	通 報 訓 練							
	原子力災害医療訓練							
	モ ニ タ リ ン グ 訓 練							
	避 難 誘 導 訓 練							
	後方支援拠点設置運営訓練							
	そ の 他							
						訓練を通じて緊急時対応能力を向上させる必要がある 訓練(年1回)		
						必要に応じ実施		
						必要に応じ実施		
緊急時対応のベース・習熟	(保安規定)				対象：発電所		頻 度：1回/年以上 目 的：成立性の確認訓練 頻 度：1回/年以上 目 的：力量の維持向上のための教育訓練	
		重大事故等発生 時における成立 性確認	重大事故等に対する技術的能 力の成立性を確認する訓練	○重要事故シーケンス19事象等 ○格納容器の破損による放射性物質の放出想定なし (アキュラスからの放出想定はあり)				
			重大事故等発生時の対応に 係る総合的な訓練	○発電所支援組織と重大事故等対策要員との連携を想 定した訓練				
緊急時対応のベース・習熟	(防災業務計画)	対象：本店、発電所		頻度：1回/年				
		防災教育 (原子力災害に関する知識及び技能の習得)					○原子力防災組織及び活動に関する知識 ○発電所及び放射性物質の運搬容器等の施設又は設備 に関する知識 ○放射線防護に関する知識 ○放射線及び放射性物質の測定方法並びに機器を含む 防災対策上の諸設備に関する知識	

訓練の基本的内容(原子力災害発生時の支援対応内容等)



1. はじめに

計画的・継続的に原子力防災訓練を実施し、継続的な緊急時対応能力の向上を図るため、「原子力防災訓練 中期計画について」（2022年9月5日、以下「中期計画」という。）に基づき、中期計画見直しに係る評価・分析を行った。

2. 評価・分析結果

○これまでの訓練結果や訓練に関する至近の動向等を踏まえ、中期計画見直しに係る評価・分析の結果、**現行の中期計画へ訓練あり方検討の結果の反映を実施**する。なお、今後は訓練あり方検討において、2024年度以降に本運用とする予定の「中期計画の策定」の試行結果を踏まえた中期計画に移行していく。

○現行の中期計画（3か年[2022年度～2024年度]）には、年度ごとの訓練テーマに加え、**年度ごとの訓練シナリオ**（シナリオ非提示型訓練）を設定しており、これに基づき更なる対応能力の向上に取り組む。

○年度ごとの訓練テーマである「社外を含む緊急時対応組織との連携」に加え、**今回の評価・分析の結果から、訓練ポイントとして、以下を抽出した。**

・**基本的な対応事項の確認及びこれを踏まえた正確かつ確実な通報連絡の実施**

3. 評価・分析

(1) 対象とする評価・分析項目

「防災訓練実施結果報告書」における原子力防災訓練の結果（訓練目的、内容等を含む。）や他電力訓練を確認した結果等を基に、中期計画に定める内容、2021年度中期計画の見直しに係る評価・分析で抽出した項目、今後の原子力災害対策に向けた改善点、他電力による評価結果・他電力防災訓練の確認結果、訓練あり方検討の活動を踏まえた対応及び2023年度の訓練計画策定に考慮が必要な事項を確認する。

a. 2022年度原子力防災訓練結果等（添付1参照）

① 年度ごとの訓練テーマ（2022年度）※

・ **事故収束に向けた現場実働訓練による判断能力及び実働能力の向上**

※2021年度中期計画見直しに係る評価分析で抽出した項目

② 年度ごとの確認項目

・ 各拠点における役割分担を認識し、災害対応ができることを確認する

・ 前年度に抽出した改善事項の有効性確認

・ 原子力事業者の防災訓練の評価指標も参考にし、訓練を計画・実行することで能力向上を目指す

③ 2021年度中期計画見直しに係る評価・分析で抽出した項目の対応状況

・ **事故収束に向けた現場実働訓練による判断能力及び実働能力の向上**

④ 今後の原子力災害対策に向けた改善点

・ 原子力規制庁ERC派遣者（リエゾン）対応に係る運用の見直し（川内）

・ 発電所対策本部における更なる簡潔・明瞭な報告の実施（川内）

・ 発出したEALを管理する一覧表の作成等（玄海）

b. その他の評価・分析項目

① 他電力による評価結果・他電力防災訓練の確認結果（添付1参照）

② 訓練あり方検討の活動を踏まえた対応（添付1参照）

③ 2023年度の訓練計画策定に考慮が必要な事項

(2) 評価・分析方法

「原子力防災訓練ガイドライン」（2018年8月 一般社団法人原子力安全推進協会）における「訓練結果の評価・改善」の手法等を参考に、以下のとおり評価・分析する。

a. 2022年度原子力防災訓練結果等

訓練テーマ等に応じ、組織の能力（体制、計画、設備）、要員の能力等の観点で評価・分析する。

b. その他の評価・分析項目

他電力の訓練結果や規制側の要求及び訓練のあり方検討等を踏まえ、2023年度の訓練計画策定に必要な事項を評価・分析する。

(3) 評価・分析内容

a. 2022年度原子力防災訓練結果に対する評価・分析（添付2参照）

① 年度ごとの訓練テーマ等*（2022年度）

○以下の評価分析結果から新たに中期計画へ反映すべきものはなかった。

・「**事故収束に向けた現場実働訓練による判断能力及び実働能力の向上**」

● 発電所対策本部はプラント状況を踏まえ、現場作業班へ適切な指示を行っており、また、現場作業班は発電所対策本部の指示に対して迅速かつ適切な対応が行っていた。

● 資機材（電源ケーブル等）損傷などのマルファンクションに対しても対応要員が適切に状況を判断し、発電所対策本部と現場作業班が連携して事故収束に向けた対応が行っていた。

*前年度までの訓練結果に対する分析等を踏まえた更なる応用力の習得として、2021年度中期計画見直しに係る評価分析にて下線部のテーマを抽出

② 年度ごとの確認項目

○以下の評価分析結果から新たに中期計画へ反映すべきものはなかった。

・「各拠点における役割分担を認識し、災害対応ができることの確認」

● 各拠点における必要な体制が整備され連携が図られている。

・「前年度に抽出した改善事項の有効性確認」

● 改善点の反映を訓練において確認し、その効果が確認できている。

・「原子力事業者の防災訓練の評価指標も参考にし、訓練を計画実行することで能力向上を目指す」

● **評価指標の目的や重要性も踏まえ訓練対応を実施した。今後も引き続き計画的・継続的に実施する訓練の中で確認していく。**

③ 2021年度中期計画見直しに係る評価・分析で抽出した項目の対応状況

・ ①にて評価・分析を実施（①と同様の内容）

④ 今後の原子力災害対策に向けた改善点

○以下の評価分析結果から新たに中期計画へ反映すべきものはないものの、**基本的な対応事項に関する改善事項を訓練のポイントとして抽出した。**

・ 原子力規制庁ERC派遣者（リエゾン）対応に係る運用の見直し（川内）

・ 発電所対策本部における更なる簡潔・明瞭な報告の実施（川内）

・ 発出したEALを管理する一覧表の作成等（玄海）

● 上記改善点に対し、至近の訓練（要素訓練を含む）で基本的な対応事項を起因とした課題が抽出されていないか確認した結果、通報連絡に関する課題が抽出されているため、**基本的な対応事項に対する改善を重点的に取り組む必要がある。**

b. その他の評価・分析項目

① 他電力による評価結果及び他電力防災訓練の確認結果（添付1参照）

他電力による評価結果及び他電力防災訓練を確認し、当社の訓練対応に考慮すべき内容として、本店からERCへの情報共有及び資機材の管理方法等に関する項目を抽出した。

② 訓練あり方検討の活動を踏まえた反映（添付1参照）

訓練あり方検討の対応として、2022年度に有効性が確認された項目については、訓練計画に反映し計画的に取り組んでいく。また、その他の項目については、2023年度以降の試行結果を踏まえ訓練に取り組んでいく。

③ 2023年度の訓練計画策定に考慮が必要な事項

これまでの訓練結果、規制庁評価指標の見直し等から以下の項目について、2023年度の個別訓練計画策定に考慮する。

○「**正確かつ確実な通報連絡の実施**」

・ 第29回原子力規制委員会（2023年8月30日）で了承された「指標4 確実な通報・連絡の実施」を受け、**正確かつ確実な通報に関する取り組み**が必要である。

4. その他

後方支援拠点の設置と運営に関しては、訓練あり方検討の試行で新たに作成する「改善領域抽出シート」を用いて訓練実績や訓練評価結果（気づき事項を含む）を踏まえ、改善領域の抽出を行う。

また、2024～2026年の取り組み事項及び2027年度以降に取り組むべき改善領域は、「取組事項・達成水準設定シート」において明確にする。

以上

評価・分析のインプット情報

1. 原子力防災訓練の結果

「防災訓練実施結果報告書」(川内：2023年1月23日、玄海：2023年5月16日に原子力規制委員会へ報告)をインプット情報とした。

なお、当該報告書において訓練の目的、評価結果及び今後の原子力災害対策に向けた改善点は以下のように記載している。

(1) 訓練の目的

訓練の主たる目的は、原子力発電所、本店、原子力事業所災害対策支援拠点（以下「後方支援拠点」という。）、東京支社及び各支店等が連携し、原子力災害発生時に原子力防災組織及び本店原子力防災組織があらかじめ定められた機能を有効に発揮できることを確認する。

- 発電所対策本部、本店対策本部、後方支援拠点等における役割分担を認識し、対策要員が関係機関との連携を含めた災害対応を実施できることを確認する
- これまでの訓練から改善を図った事項の有効性を確認する
- 訓練目標
 - 事故収束に向けた現場実働訓練による判断能力及び実働能力の向上

(検証項目)

- 現場実働訓練において、不測の事態等の発生を認知し、当該事象に対して、適切な判断及び対処が行えること

(2) 訓練の評価結果

- 2022年度において先行して実施した川内訓練にて抽出した課題に対し、速やかに要因及び改善点を検討し、玄海訓練にてその対策の効果を確認できており、PDCAサイクルが機能し、緊急時対応能力の継続的な改善が図られている。
- 発電所、本店、後方支援拠点東京支社及び各支店が連携し、原子力災害発生時に原子力防災組織及び本店原子力防災組織があらかじめ定められた機能を有効に発揮できることが確認できたことから、(1)の訓練目的及び検証項目は達成したものと判断する。
(1) a. 関連)
- 要素訓練の積み重ね及びシナリオ非提示型訓練への取り組みを重ねるごとに、これまでの訓練から抽出された改善について、その対策の効果が確認できており、組織全体として緊急時対応能力が向上していると評価する。(1) b. 関連)
- 訓練を踏まえ、今後に向けた改善点等が抽出されたものの、想定した原子力災害に対する事故対応等を行えることが確認できたため、緊急時対応能力及び防災体制が十分であることが確認できる訓練結果であったと評価する。(1) c. 関連)
- 現場実働訓練において、アクセスルートの一部使用不能、機器の不具合等が生じるものであったが、発電所対策本部は現場作業班へ適切な指示を行っており、また、現場作業班は発電所対策本部の指示に対して迅速かつ適切な対応が行っていたことから、不測の事態に対し、的確に事態を認知し、当該事象に対して適切な判断及び対処が行っていたものと評価する。

(3) 今後の原子力災害対策に向けた改善点

【川内】

- 原子力規制庁ERC派遣者（リエゾン）対応に係る運用の見直し
- 発電所対策本部における更なる簡潔・明瞭な報告の実施

【玄海】

- 発出したEALを管理する一覧表の作成等

2. 他電力による評価として、現地（本店即応センター）及び録画映像（現場実働訓練）による確認を受けた結果、以下の気づき事項（良好事例を含む）があった。

- 主な気づき事項
- ERC側が発話中であっても緊急情報を入手した際は、割り込んで情報共有することが出来ていた。[玄海（本店）]
 - 予定時刻を過ぎているにも関わらず、予定時刻として発話する場面があった[玄海（本店）]
 - 本店即応センターからERCプラント班に対し、ERSS、COP、備付資料等を活用して視覚的に分かりやすい情報共有ができていた。[川内（本店）]
 - 一部の資料では文字の線が細い等、書画が見づらい場面があった[川内（本店）]
 - ケーブルが損傷しないよう班員全員でケーブルを持ち上げ運搬し、敷設していた。[玄海（現場）]
 - ケーブル外被損傷のマルファンクションでは、予備ケーブルへの切替で対応されていたが、不良ケーブルに対し識別の指示があればよりよい[玄海（現場）]
 - 班長が手順書を確認チェックをしながら使用する資機材、工具を指示していた。また、班員は内容物、個数を確認したのちに運搬積載をしていた。[川内（現場）]
 - 安全上、固縛装置等の重量物は2人以上で運搬したほうが良い[川内（現場）]

3. 他電力防災訓練の確認結果

(1) 確認実績

下表のとおり、他電力の防災訓練を確認し、その確認結果（議事録等）をインプット情報とした。なお、2022年度は新型コロナウイルス感染症対策の観点から、一部の訓練を除き、現地での視察は行わず、統合原子力防災ネットワークのTV会議及び録画映像による確認を実施した。

(2) 確認結果

当社の社内原子力防災訓練への視察受入れ（映像による確認を含む）及び他電力防災訓練の確認を実施し、2023年度に重点的に確認する項目として、以下の項目を抽出した。

- ・ERCプラント班へのCOP等の資料配布状況の確認した上での説明（島根）
- ・緊急地震速報を用いた、地震情報の本店対策本部内への周知（泊）
- ・グリッド線の追加等備付資料の充実（志賀）

4. 訓練あり方検討の活動を踏まえた対応

訓練あり方検討の対応として、2023年度以降は、以下の方針で訓練に取り組んでいく。

- 2022年度に有効性が確認された以下の項目については、訓練計画に反映し計画的に取り組む。
 - ・GEに至ることを求めない（SE止まり）訓練：2024年度以降の自社訓練で取組み予定
 - ・実発災を想定した広範囲な支援組織との連携：2023年度は、2022年度の玄海LSB訓練における試行結果を踏まえた対応を実施予定
 - ・事業者間ピアレビュー：2023年度は、川内NPSを対象に事業者間ピアレビューを実施予定
- その他の項目については、2023年度以降の試行結果を踏まえ訓練に取り組んでいく。

(他電力防災訓練の確認実績)

	日時	訓練内容	視察場所
1	2022年8月30日	関西電力(株) 高浜発電所原子力防災訓練	◇☆原子力規制庁ERC ◇本店即応センター ◇高浜原子力発電所
2	2022年10月7日	東京電力HD(株) 福島第一、第二原子力発電所原子力 防災訓練	◇☆原子力規制庁ERC ◇本店即応センター ◇☆福島第一・第二原子力発電所
3	2022年10月11日	日本原子力発電(株) 東海発電所原子力防災訓練(第2部)	◇本店即応センター
4	2022年11月15日	中国電力(株) 島根原子力発電所原子力防災訓練	◇☆原子力規制庁ERC ☆本店即応センター ☆島根原子力発電所
5	2022年11月25日	東北電力(株) 東通原子力発電所原子力防災訓練	◇原子力規制庁ERC ◇☆本店即応センター(評価者) ◇東通原子力発電所
6	2022年12月2日	日本原子力発電(株) 敦賀発電所原子力防災訓練	◇原子力規制庁ERC ◇本店即応センター ◇敦賀原子力発電所
7	2022年12月9日	四国電力(株) 伊方発電所原子力防災訓練	◇☆原子力規制庁ERC ◇即応センター松山 ☆伊方原子力発電所
8	2023年1月20日	関西電力(株) 大飯発電所原子力防災訓練	◇☆原子力規制庁ERC ◇本店即応センター ◇大飯原子力発電所
9	2023年1月27日	北海道電力(株) 泊発電所原子力防災訓練	◇原子力規制庁ERC ☆泊原子力発電所(評価者)
10	2023年1月31日	北陸電力(株) 志賀原子力発電所原子力防災訓練	◇原子力規制庁ERC ☆本店即応センター(評価者) ☆志賀原子力発電所(評価者)
11	2023年2月3日	東京電力HD(株) 柏崎刈羽原子力発電所原子力防災訓練	◇☆原子力規制庁ERC(評価者) ◇☆本店即応センター(評価者) ◇☆柏崎刈羽原子力発電所(評価者)
12	2023年2月10日	中部電力(株) 浜岡原子力発電所原子力防災訓練	◇原子力規制庁ERC ◇本店即応センター ◇浜岡原子力発電所
13	2023年2月17日	日本原子力発電(株) 東海、東海第二発電所原子力防災訓練	◇本店即応センター ◇東海、東海第二原子力発電所
14	2023年3月3日	関西電力(株) 美浜発電所原子力防災訓練	◇原子力規制庁ERC ◇本店即応センター ◇美浜原子力発電所
15	2023年3月7日	東北電力(株) 女川原子力発電所原子力防災訓練	◇原子力規制庁ERC ◇本店即応センター ◇女川原子力発電所

※視察方法 ◇：統原防NWまたは録画映像、☆：現地

① 年度ごとの訓練テーマ等

- ・事故収束に向けた現場実働訓練による判断能力及び実働能力の向上

[検証項目]

- ✓ 現場実働訓練において、不測の事態等の発生を認知し、当該事象に対して、適切な判断及び対処が行えること

分類	内容	分析結果
組織の能力	体制	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所対策本部、現場作業班ともに、予め定められた体制を確立できていた。 ・体調不良者が発生した際に発電所対策本部と連携し、速やかに交代要員を派遣していた。(川内)
	組織・要員の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・不測の事態(マルファンクション対応)に対し、状況を確認し、代替手段の検討ができていた。
情報共有	対策本部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブル発生(マルファンクション対応)時に現場と対策本部が連携した適切な対応が図られている。 ・大津波警報の発令に伴い、取水ピットの水位等の情報を適宜本部と現場が情報共有し、本部は津波到達が近づいたと判断した際には、速やかに現場に避難指示を行うことができていた。また、現場作業班は、発電所対策本部の指示に対して迅速かつ適切な対応が行えていた。(玄海)
	現場作業員間のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・重機を使用した作業では、誘導員を配置し、周囲の安全を確認し、運転者と誘導員が合図により連絡を取り合い、安全に作業を行っていた。(川内) ・放射線防護具装着環境下で会話聞き取りにくい場面においても、各ステップ終了の都度、手を上げる等の全身アクションで、コミュニケーションの補てんができていた。(玄海)

[検証結果]

- 発電所対策本部はプラント状況を踏まえ、現場作業班へ適切な指示を行っており、また、現場作業班は発電所対策本部の指示に対して迅速かつ適切な対応が行えていた。
- 資機材(電源ケーブル等)損傷などのマルファンクションに対しても対応要員が適切に状況を判断し、発電所対策本部と現場作業班が連携して事故収束に向けた対応が行えていた。

② 年度ごとの確認項目

- 発電所対策本部、本店対策本部、後方支援拠点等における役割分担を認識し、対策要員が関係機関との連携を含めた災害対応を実施できることを確認

分類	内容	分析結果
組織の能力	体制	原子力事業者防災業務計画等に基づき体制の整備が図られており、各機能班の役割が明確化され、各班が連携し、組織の体制向上に寄与している。
	計画	緊急時対応に関する業務の手順、訓練目的などの策定
	設備	各施設、通信設備、共有端末などハード面に対する工夫状況
要員の能力	体制	訓練を重ねるごとに役割分担に応じた活動が展開できており、新規要員に対して、班内でのサポートが適切に行われ能力維持が図られている。

- これまでの訓練から改善を図った事項の有効性
2022年度訓練において、2021年度訓練時に抽出された改善点の反映を訓練で確認できており、訓練を通じて組織の能力、要員の能力の向上に寄与している。
また、抽出した課題に対し、速やかに要因及び改善点を関係者で検討し、訓練にてその対策の効果を確認するPDCAサイクルが機能する組織の維持が図られている。

- 原子力事業者防災訓練評価指標に対する取り組み
令和4年度第28回原子力規制委員会(2022年8月17日)で了承された「指標7 現場実働訓練の実施」の見直し内容等を受け、評価指標の目的や重要性も踏まえた訓練対応を実施した。今後も引き続き計画的・継続的に実施する訓練の中で確認していく。

③ 2021年度中期計画見直しに係る評価・分析で抽出した項目の対応状況

「①年度ごとの訓練テーマ等」と同様の内容

④ 今後の原子力災害対策に向けた改善点

- ・原子力規制庁ERC派遣者(リエゾン)対応に係る運用の見直し(川内)
- ・発電所対策本部における更なる簡潔・明瞭な報告の実施(川内)
- ・発出したEALを管理する一覧表の作成等(玄海)

上記改善点に対し、至近の訓練で基本的な対応事項を起因とした課題が抽出されていないか確認した結果、通報連絡に関する課題が以下の通り抽出されているため、基本的な対応事項の確認を重点的に取り組む必要がある。

- ✓ 2021年度川内総合訓練
 - ・応急措置の実施報告(25条報告)において報告すべき内容の周知・習熟

九州電力（株）原子力防災訓練対応実績・スケジュール

		実施事項	2022年			2023年												2024年				備考				
			10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降					
ACTION	改善実施	○改善対策の具体化 ▪改善内容の周知・教育	▼	[川内]																						▼川内訓練日：2022. 10. 25 ▼玄海訓練日：2023. 2. 28
CHECK	訓練報告	○2022年度川内訓練報告書提出				▼																				2023. 1. 23
		○2022年度玄海訓練報告書提出									▼															2023. 5. 16
ACTION	改善実施	○2022年度訓練評価を踏まえた改善対策の具体化 ■通報文作成ルール等の周知・習熟 →EALを管理する一覧表の作成、勉強会・訓練等により周知																								
		○習熟訓練 ▪ERC対応ブース情報共有習熟訓練 ▪通報文作成習熟訓練（要素訓練）																								
		○原子力事業者防災訓練報告会／規制委員会報告 ▪評価結果、今年度の評価指標の考え方、対応方針の周知																								防災訓練報告会：2023. 7. 26 規制委員会報告：2023. 8. 30
		○教育訓練 ▪原子力防災教育 ▪ERC備付資料説明会																								
		○事業者防災業務計画見直し検討 ○中期計画見直しに係る評価分析検討																								届出日：2023. 10. 20
PLAN	訓練計画	○2022～2024年度訓練 中期計画見直し（必要時） ○2023年度訓練計画策定																								
DO	訓練実施	○2023年度訓練実施（川内）																								訓練日：2023. 12. 19
CHECK	訓練評価	○川内訓練評価 ▪社内自己評価 ▪対策の有効性評価（2022年度訓練課題） ▪パンチリスト対応 ▪課題の抽出、原因分析、対策検討、対策の方針決定																								
		○2023年度訓練報告書提出（川内）																								
ACTION	改善実施	○訓練評価を踏まえた改善対策の具体化 ■変更内容の周知・教育 →抽出された改善項目に対する個別訓練等の実施																								
		○習熟訓練																								
DO	訓練実施	○2023年度訓練実施（玄海）																								訓練日：2024. 2. 27（予定）
CHECK	訓練評価	○玄海訓練評価 ▪社内自己評価 ▪対策の有効性評価（2022年度訓練課題） ▪パンチリスト対応 ▪課題の抽出、原因分析、対策検討、対策の方針決定																								
		○2023年度訓練報告書提出（玄海）																								
ACTION	改善実施	○訓練評価を踏まえた改善対策の具体化 ■変更内容の周知・教育 →抽出された改善項目に対する個別訓練等の実施																								次年度訓練へ反映
		○中期計画見直しに係る評価分析検討開始 ○事業者防災業務計画見直し検討開始																								
PLAN	訓練計画	○中期計画見直し ○2024年度訓練計画策定																								他社訓練の良好事例、JANSI報告会、 規制庁訓練報告会等も参考とする
DO	訓練実施	○2024年度訓練実施																								

九州電力（株）原子力防災訓練対応実績・スケジュール

資料②①

	実施事項	2021年			2022年												2023年				備考		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降			
ACTION	改善実施	○改善対策の具体化 [備付資料、初動対応、 要領見直し（発話ポイント、情報フロー、役割分担）] ・改善内容の周知・教育			▼ [玄海]	▼ [川内]																▼玄海訓練日：2021.10.1 ▼川内訓練日：2022.1.18	
CHECK	訓練報告	○2021年度玄海訓練報告書提出				▼																2022.1.28	
		○2021年度川内訓練報告書提出							▼													2022.5.12	
ACTION	改善実施	○2021年度訓練評価を踏まえた改善対策の具体化 ■10条確認会議及び15条認定会議時の説明内容の整理 →整理表の作成、勉強会・訓練等により周知																					
		■25条報告において報告すべき内容の周知・習熟 →フォーマットの作成、勉強会・訓練等により周知																					
		○習熟訓練 ・ERC対応ブース情報共有習熟訓練 ・通報文作成習熟訓練（要素訓練）																					
		○原子力事業者防災訓練報告会／規制委員会報告 ・評価結果、今年度の評価指標の考え方、対応方針の周知																					防災訓練報告会：2022.7.21 規制委員会報告：2022.8.17
		○教育訓練 ・原子力防災教育 ・ERC備付資料説明会																					
		○事業者防災業務計画見直し検討 ○中期計画見直しに係る評価分析検討																					届出日：2022.8.19
PLAN	訓練計画	○2022～2024年度訓練 中期計画策定																					2022.9.5策定
		○2022年度訓練計画策定																					2022.9.5策定
DO	訓練実施	○2022年度訓練実施（川内）																					訓練日：2022.10.25
CHECK	訓練評価	○川内訓練評価 ・社内自己評価 ・対策の有効性評価（2021年度訓練課題） ・パンチリスト対応 ・課題の抽出、原因分析、対策検討、対策の方針決定																					
		○2022年度訓練報告書提出（川内）																					
ACTION	改善実施	○川内訓練評価を踏まえた改善対策の具体化 ■変更内容の周知・教育 →抽出された改善項目に対する個別訓練等の実施																					
		○習熟訓練																					
DO	訓練実施	○2022年度訓練実施（玄海）																					訓練日：2023.2.28
CHECK	訓練評価	○玄海訓練評価 ・社内自己評価（川内訓練時の対策の検証含む） ・対策の有効性評価（2021年度訓練課題） ・パンチリスト対応 ・課題の抽出、原因分析、対策検討、対策の方針決定																					
		○2022年度訓練報告書提出（玄海）																					
ACTION	改善実施	○2022年度訓練評価を踏まえた改善対策の具体化 ■変更内容の周知・教育 →抽出された改善項目に対する個別訓練等の実施																					次年度訓練へ反映
		○中期計画見直しに係る評価分析検討開始 ○事業者防災業務計画見直し検討開始																					
PLAN	訓練計画	○中期計画見直し ○2023年度訓練計画策定																					他社訓練の良好事例、JANSI報告会、 規制庁訓練報告会等も参考とする
DO	訓練実施	○2023年度訓練実施																					

九州電力（株）原子力防災訓練対応実績・スケジュール

	実施事項	2022年			2023年												2024年				備考		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降			
ACTION	改善実施	○改善対策の具体化 ・改善内容の周知・教育		▼ [川内]		▼ [玄海]															▼川内訓練日：2022. 10. 25 ▼玄海訓練日：2023. 2. 28		
CHECK	訓練報告	○2022年度川内訓練報告書提出			▼																2023. 1. 23		
		○2022年度玄海訓練報告書提出					▼														2023. 5 (予定)		
ACTION	改善実施	○2022年度訓練評価を踏まえた改善対策の具体化 ■通報文作成ルール等の周知・習熟 →EALを管理する一覧表の作成、勉強会・訓練等により周知																					
		○習熟訓練 ・ERC対応ブース情報共有習熟訓練 ・通報文作成習熟訓練（要素訓練）																					
		○原子力事業者防災訓練報告会／規制委員会報告 ・評価結果、今年度の評価指標の考え方、対応方針の周知									▼	▼										防災訓練報告会：2023. 6 (予定) 規制委員会報告：2023. 7 (予定)	
		○教育訓練 ・原子力防災教育 ・ERC備付資料説明会																					
		○事業者防災業務計画見直し検討 ○中期計画見直しに係る評価分析検討																					
PLAN	訓練計画	○2022～2024年度訓練 中期計画見直し（必要時） ○2023年度訓練計画策定																					
DO	訓練実施	○2023年度訓練実施（川内）																				訓練日：2023. 12 (予定)	
CHECK	訓練評価	○川内訓練評価 ・社内自己評価 ・対策の有効性評価（2022年度訓練課題） ・パンチリスト対応 ・課題の抽出、原因分析、対策検討、対策の方針決定																					
		○2023年度訓練報告書提出（川内）																					
ACTION	改善実施	○訓練評価を踏まえた改善対策の具体化 ■変更内容の周知・教育 →抽出された改善項目に対する個別訓練等の実施																					
		○習熟訓練																					
DO	訓練実施	○2023年度訓練実施（玄海）																				訓練日：2024. 2 (予定)	
CHECK	訓練評価	○玄海訓練評価 ・社内自己評価 ・対策の有効性評価（2022年度訓練課題） ・パンチリスト対応 ・課題の抽出、原因分析、対策検討、対策の方針決定																					
		○2023年度訓練報告書提出（玄海）																					
ACTION	改善実施	○訓練評価を踏まえた改善対策の具体化 ■変更内容の周知・教育 →抽出された改善項目に対する個別訓練等の実施																					
		○中期計画見直しに係る評価分析検討開始 ○事業者防災業務計画見直し検討開始																					
PLAN	訓練計画	○中期計画見直し ○2024年度訓練計画策定																					
DO	訓練実施	○2024年度訓練実施																					

2023 年度玄海原子力防災訓練（2024. 2. 27） ERC コントローラとの連携

黄色マーカー一部は NRA 殿と今後調整させていただきます。

個人情報及びシナリオ情報を含むため非開示

個人情報及びシナリオ情報を含むため非開示

事前通信確認試験のお願いについて

玄海原子力防災訓練の機器動作確認の一環として、以下のとおり、通信確認試験を実施させていただきたいと考えております。

ご対応よろしく申し上げます。

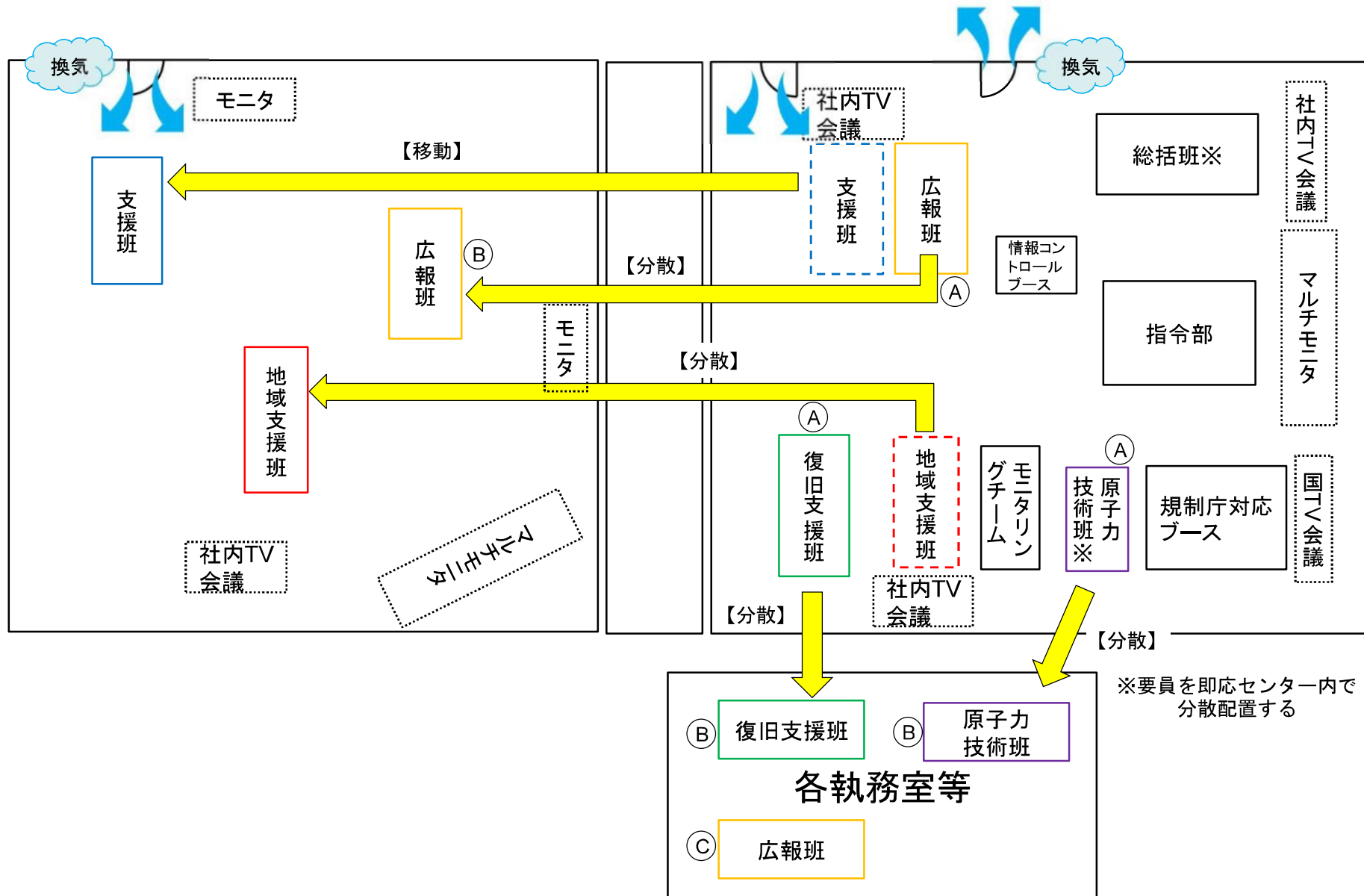
個人情報のため非開示

本店即応センター分散配置

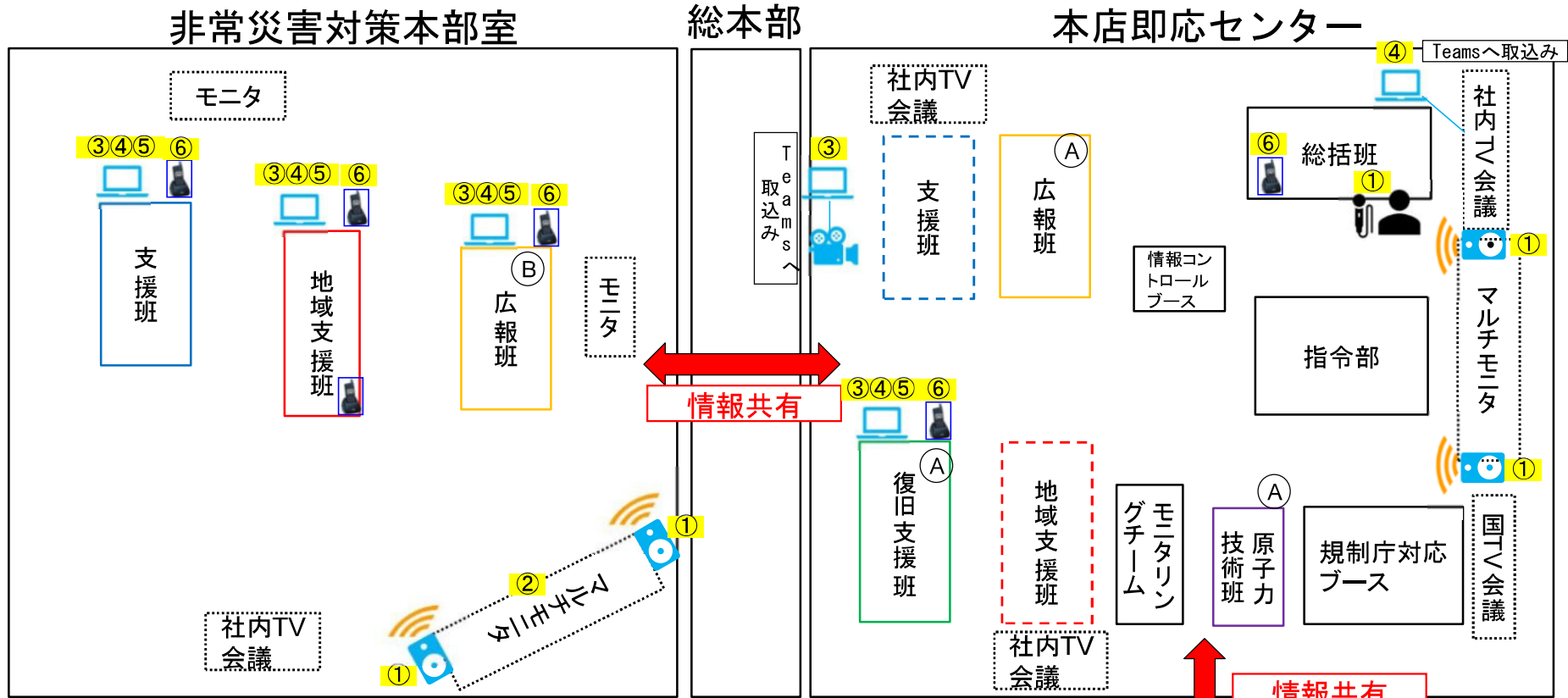
非常災害対策本部室

総本部

本店即応センター



本店即応センター分散配置に伴う情報共有・連絡方法



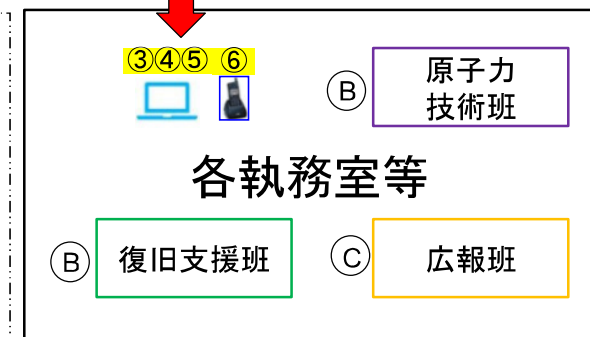
情報共有・連絡方法

【全体情報共有】

- ①即応Cのマイク音声（社内TV、館内放送）を非災室マルチモニタスピーカーより出力（※非災室→即応Cの音声連絡はPHS等を用いる）
- ②非災室マルチモニタにトリートパラメータ、社内TV会議、書画を投影
- ③即応Cにビデオカメラを設置し、全体映像・音声をTeamsに取り込む（他PCより視聴可能）
- ④発電所との社内TV会議映像・音声をTeamsに取り込む（他PCより視聴可能）

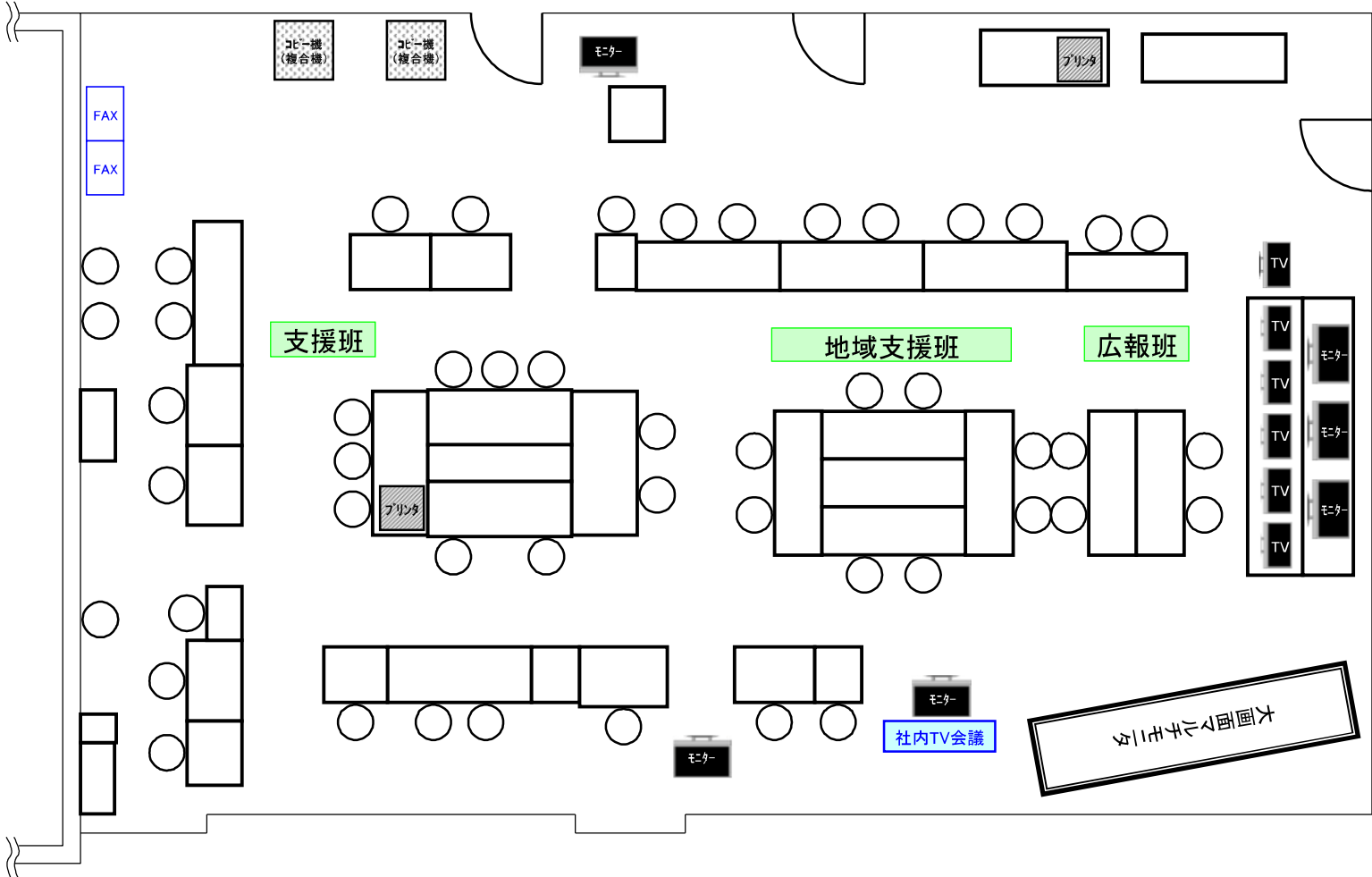
【個別連絡方法】

- ⑤Teams ⑥PHS



※「本店即応センター分散配置に伴う情報共有・連絡方法」については、訓練、検証等を踏まえ、必要により見直すこととする。

本店非常災害対策本部室 レイアウト



原子力防災訓練における緊急時対応センター(ERC)使用機器一覧(広報班)

	機器名称	数量	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ノートPC ▪ ACアダプタ ▪ マウス 	2式	▪ 九電持込
2	モバイルルータ	1	▪ 九電持込
3	<ul style="list-style-type: none"> ▪ スキャナ (Canon) ▪ ACアダプタ ▪ USBケーブル 	1	▪ 九電持込
4	<ul style="list-style-type: none"> ▪ プリンタ (Canon) ▪ 交換用カートリッジ ▪ ACアダプタ ▪ USBケーブル ▪ 印刷用紙 	1	▪ 九電持込
5	据え置きプリンタ	1	▪ ERC内に設置されているものを借用
6	プリンタ接続ケーブル	2 (20m, 30m)	▪ 九電持込
7	電源タップ	2	▪ 九電持込

※確認事項

- 据え置きプリンタの設置場所及び機種に変更がないか (ERC広報班、プラント班)
→変更がある場合ドライバ再設定が必要

原子力防災訓練における緊急時対応センター(ERC)使用機器一覧(プラント班)

	機器名称	数量	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ノートPC ▪ ACアダプタ ▪ ICカードリーダー ▪ マウス 	2 式	▪ 九電持込
2	モバイルルータ	1	▪ 九電持込
3	<ul style="list-style-type: none"> ▪ スキャナ (Canon) ▪ ACアダプタ ▪ USBケーブル 	1	▪ 九電持込
4	<ul style="list-style-type: none"> ▪ プリンタ (Canon) ▪ 交換用カートリッジ ▪ ACアダプタ ▪ USBケーブル ▪ 印刷用紙 	1	▪ 九電持込
5	据え置きプリンタ	1	▪ ERC内に設置されているものを借用
6	プリンタ接続ケーブル	2 (20m, 30m)	▪ 九電持込
7	電源タップ	2	▪ 九電持込

※確認事項

- 据え置きプリンタの設置場所及び機種に変更がないか (ERC広報班、プラント班)
→変更がある場合ドライバ再設定が必要